

平成30年度～31年度 大気環境学会分科会

分科会の名称	代表者 所属 E-mail	設立目的（概要） 分科会ホームページ	活動計画 （抜粋）
1 植物分科会	青野光子	植物とそれを取り巻く大気環境との関係を、植物生育に関わる諸条件を視野に入れながら 科学的に解明し、大気環境の実態評価、将来予測、改善ならびに緑の保全に寄与することを 目的とする。	1) 幹事会議を開催し(年に3回程度)、活動内容の詳細を検討・決定する。 2) 総会を開催する(年に1回)。 3) 毎年最低1回は講演会を開催する。 4) 活動期間中に1回は全国規模の講演会等を開催する。 5) 活動期間の最終年度に幹事選挙を実施する。
	国立環境研究所		
	maono@nies.go.jp		
2 大気環境モデリング分科会	永島 達也	都市大気環境モデル研究者間の研究交流・行政担当者との情報交換を促進するとともに、モデル計算結果の確認、不確定性等の評価を行えるモデルの相互比較の場を提供する。また、都市大気環境への影響評価につながる「モデリング」研究全般を視野に含め、都市大気環境モデル研究のレベル向上という学術的立場と研究成果の環境行政へのインプットという社会的立場の双方から、都市大気環境改善に向けて貢献する。	(1) 予測モデル相互比較のための検討 (2) モデル・ワークショップ等の開催
	(独) 国立環境研究所		
	nagashima.tatsuya@nies.go.jp		
3 酸性雨分科会	藍川昌秀	大気環境中における「酸性雨」に関する動的側面及びその陸域生態系影響について学術的討論検討を行うとともに、各種市民団体等に対し酸性雨を通じた環境学習等の支援を行うことにより、大気汚染を含めた酸性雨による環境影響の未然防止に寄与することを目的とする。	大気環境学会開催中に、主に研究者を対象にした酸性雨に関連する諸問題の現状についての討論会を開催する。環境保全・改善等に寄与することを目的として活動している市民・教職員及び研究者を対象に関西及び関東地区で環境学習・環境教育を加味した酸性雨講演会等を開催する。 研究者及び一般市民を対象として、酸性雨研究ニュース(電子メール版)を発行する。
	北九州市立大学国際環境工学部		
	masahide_aikawa@kitakyu-u.ac.jp		
4 環境大気モニタリング分科会	齋藤伸治	大気汚染状況は、全国の観測ステーション等で日々膨大な測定データが収集されているが、これらの観測精度を維持するとともに、観測データを十分に活用するためには、その基礎となる測定法や分析法についての理解が不可欠である。当分科会ではPM2.5や光化学オキシダント及びこれらの原因となる物質も含めた大気モニタリングのための測定方法および分析方法等の調査研究を行うと共に、これら情報の共有を図り、大気環境研究の基礎となる大気モニタリングの中核として貢献することを目的とする。	第59回大気環境学会年会時の分科会集会として「温室効果ガス・エアロゾルの観測と気候変動への影響」を開催予定である。また、3月には第44回研究会として江東区にて講演会を開始する予定である。また、年に数回幹事会を開催する計画である。
	東京都環境科学研究所		
	saito-s@tokyokankyo.jp		
5 健康影響分科会	定金 香里	大気環境中のガス状および粒子状物質による健康への影響を未然に防止するために、ガス状および粒子状物質の生体影響について科学的な知見を集積し、その健康リスク評価を行うことは重要な課題と位置付けられている。健康影響分科会は、総合的にガス状および粒子状物質の発がん(変異原)性、免疫毒性、脳・神経毒性、生殖毒性などの新たな毒性面での動物実験、体内挙動、曝露評価手法の確立、疫学研究の推進、分子生物学など新たな技術を用いた健康影響評価手法やリスク評価研究の推進を目的として活動する。	2018年度 黄砂、PM2.5に関する最新の知見について幅広く、話題提供する。大気環境学会年会時の分科会や特別集会にて、越境粒子状物質(黄砂、PM2.5)の物理学的・化学的性状、疫学調査、実験研究等を専門とする研究者を招いて講演会を実施する。 2019年度 大気環境学会分科会企画では、疫学的アプローチと実験的アプローチ双方の視点から新たな研究課題を発掘することを目的とし、健康、生体影響に関する研究テーマを広く募集する。大気環境の健康影響問題に係わる研究者間の交流を図り、情報や意見の交換、研究活動の活性化を促進する。
	大分県立看護科学大学		
	sadakane@oita-nhs.ac.jp		
6 自動車環境分科会	柏倉 桐子	現在、リアルワールドでの排出実態を追求したオフサイクルでの排出ガス対策、高度な排出ガス浄化機構の耐久性向上、新技術採用に伴う排出ガスの性状変化への懸念などがある。自動車起因の環境問題を総合的に扱うこと目的に、①自動車による環境負荷低減に意欲のある会員のネットワークの構築と協働の研究、②発生源から大気環境までの広範な研究をより戦略的に進めることにより、研究成果の実効性、有効性を高め、③自動車依存の社会が今後も継続することを前提に、その利用方法の改善による環境負荷の低減について検討を行う等により、迅速な環境負荷の低減と未然防止に結びつけるための研究活動を実施していく。	① 講演会 年会開催時の講演会を含め、年2回程度のシンポジウム等を開催 ② 見学会 研究機関、対策事例等の見学及び講演会を開催 ③ 委託事業の受託 研究事業の受託
	(一般) 日本自動車研究所		
	kkiriko@jari.or.jp		

	分科会の名称	代表者 所属 E-mail	設立目的（概要） 分科会ホームページ	活動計画 （抜粋）
7	室内環境分科会	青柳 玲児 株式会社ガステック aoyagir@gastec.co.jp	室内空気環境全般に関わる諸問題に関して、人の健康保護のみならず快適な環境という観点から研究の発展を促進することを目的とし、会員相互の交流を図るとともに、研究者の連携による対外活動（調査研究等を含む）等を、積極的に推進していく。 https://sites.google.com/site/jsaeindoorenvironment/	各年度に年次総会における分科会を開催する。期間内に、室内空気環境に関する資料集等を作成し、分科会主催の講演会を開催する。
8	放射性物質動態分科会	反町 篤行 福島県立医科大学 sorimac@fmu.ac.jp	東日本大震災と津波に伴う福島原発事故で放出された大量の放射性物質の大気環境への影響は大きく、大気環境学会として長期的に取り組むべき課題である。また、国内に多数の原発が存在しており、そのモニタリング体制などの構築も急務である。これらの背景のもとに、本分科会を継続し、以下の目的で活動する。 (1) 福島原発事故による大気環境への影響に関する取組 (2) 国内に多く存在する原発周辺のモニタリング体制および手法や予測手法の検討	①勉強会・研究会を随時開催する。 ②年に1回程度、他学会や研究グループ/研究機関などと共同で、ワークショップやシンポジウムを開催し、その結果を学会誌、学会ホームページなどから発信する。 ③大気環境学会年会の開催期間中に、分科会講演会もしくは特別集会を開催する。 ④現地見学会などを開催する。 ⑤行政担当者や住民に対し、科学的知見をわかりやすく情報発信する。
9	臭気環境分科会	上野 広行 東京都環境科学研究所 ueno-h@tokyokankyo.jp	大学、公的研究機関、行政機関、民間研究機関、メーカーやコンサルタント会社など種々の機関で臭気に関する研究・業務に携わっている人々が集まり、臭気の測定・評価方法、防・脱臭対策、行政施策、にのいの活用、嗅覚メカニズム解明などに関し、全国各地に広がるネットワークを通じてお互いの情報交換、あるいは共同研究や現地調査を行って臭気対策を推進し、快適な生活環境の保全に寄与することを目的とする。 https://sites.google.com/site/jsaeodor/	平成30年度：全体集会の開催(平成30年9月) その他研究会または見学会の開催 大気環境学会誌入門講座執筆（第53巻第5号—第54巻第3号の予定） 平成31年度：全体集会の開催 その他研究会または見学会の開催
10	都市大気エアロゾル分科会	長谷川 就一 埼玉県環境科学国際センター hasegawa.shuichi@pref.saitama.lg.jp	2013年におこったPM2.5問題は沈静化しているが、今後もPM2.5濃度の推移を注意深く監視する必要があるとともに、環境基準未達成の地域が大都市や瀬戸内地域などに集中していることから、その要因の解明と対策が求められている。加えてPM2.5の質量濃度や成分組成の自動測定機の信頼性や二次有機エアロゾルの生成メカニズム、植物起源のエアロゾルの都市域への寄与等についても研究すべき点が多く残されている。本分科会は、こうした都市大気エアロゾルに関する課題について、国内外の研究動向、知見などを共有化する場を提供するとともに、今後必要とされる研究の方向性を発信することを目的として活動する。 http://www.geocities.jp/jsae_urbanaerosol/index.html	・ 2018年および2019年の大気環境学会年会において、関連するテーマの講演・討論会を企画・開催する。 ・ 各支部のエアロゾル関連部会との協同により講演会やセミナーを開催する。 ・ 関連する他の分科会や、エアロゾル学会など他学会において都市大気エアロゾル分野で活躍する研究者と交流する機会を持ち、情報交換や研究活動の促進を図る。 ・ 行政施策の参考となるような報告や科学的で公平な提言活動を積極的に行う。
11	シニア分科会	若松伸司 大気環境総合センター wakamatu@agr.ehime-u.ac.jp	大気環境学会のベテラン会員（概ね65歳以上：OB・OG）の活動を具体的にするため、分科会を設立し、年次時に分科会集会を開催する他、高齢者向け市民講座、若手育成の実務講習等を検討することを目的とする。	年次時に分科会集会を開催する他、高齢者向け市民講座、若手育成の実務講習等の開催を検討する。活動内容と年次計画の概要を以下に示す。 (1) 幹事会議を開催し、活動内容の詳細を検討・決定する。 (2) 毎年最低1回は講演会等を開催する。 (3) 活動期間中に1回は全国規模の講演会等を開催する。